

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	グローバルゲート管理組合
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中村区平池町4-60-12
工場等の名称	グローバルゲート(共用部)
工場等の所在地	愛知県名古屋市中村区平池町4-60-12
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	事務所
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	不動産管理業(複合ビルの共用部管理)
計画期間	令和3年4月1日 ~ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

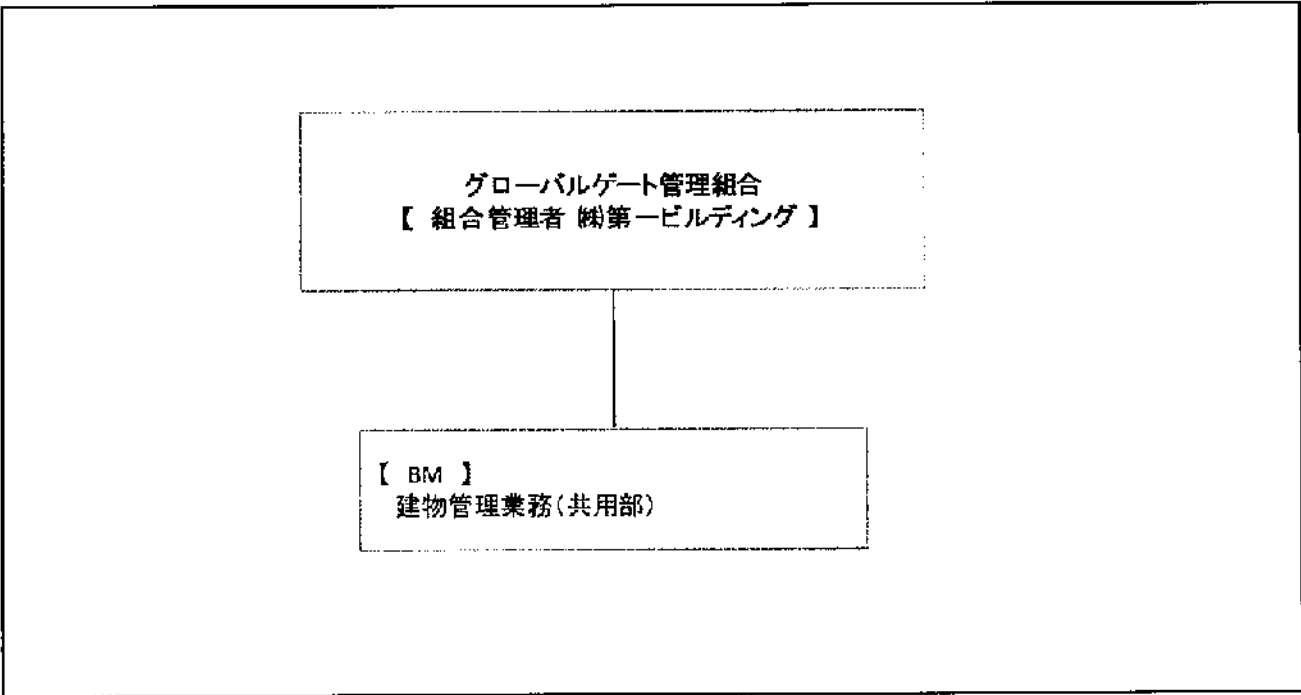
公表期間	令和5年7月31日 ~ 令和5年10月29日		
公表方法	○	揭示 閲覧	(場所) 御第一ビルディング グローバルゲートオフィス
		ホームページ	(HPアドレス)
		冊子	(冊子名・ 入手方法)
		その他	(その他詳細)
公表に係る問合せ先	052-571-3680		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

- ・地球温暖化対策をはじめとする地球環境保全の重要性を認識し、環境負荷の軽減に努める。
- ・エネルギー使用量の把握に努め、増減要因を分析し、省エネ施策を検討・実施していく。
- ・エリア内でのエネルギーマネジメント会議（ささしまライブ24地区AEMS協議会）に参加し、地域を通じた地球温暖化対策活動を行うことで、施設のみならず、エリア全体でのエネルギーの最適化に貢献していく。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）	2,590	t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	2,590	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
温室効果ガス 総 排 出 量		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）				%		%		%	
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂	
削減率（対 基準年度）						%		%	

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績				
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度	令和 4 年度	令和 5 年度		
原単位あたりの 排 出 量	0.04793	t-CO ₂ / m ²	0.06322	t-CO ₂ / m ²	0.0485	t-CO ₂ / m ²	0.04872	t-CO ₂ / m ²	t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）			▲ 31.9	%	▲ 1.2	%	▲ 1.6	%	%
原単位あたりの みなし排出量						t-CO ₂ / m ²		t-CO ₂ / m ²	t-CO ₂ / m ²
削減率（対 基準年度）						%		%	%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

基準年と比較すると排出量が増加しているものの、目標は達成している。 ・コロナによる影響減 月間最高気温の ・冷水の使用量増加が著しい。背景として5月～10月の6か月間平均気温（名古屋）が2021年度の33.36度から2022年度は35.25度と2度近く上昇している（気象庁データより）。なお温水・蒸気の使用量は減少しているが、電気・冷水の増加幅が上回っている。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 4 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）
2017年度	太陽光発電設備	総容量：60.21kW／2022年度発電量：43,466.4kWh

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 4 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

・商業エリア空調機における外気予冷への工水利用 ・ゴミ分別による資源回収

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

なし
